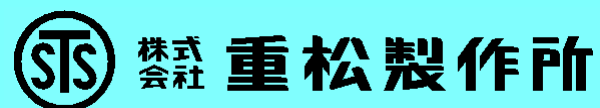


# 中間決算説明資料 ( 2 0 0 4 年度 )

2 0 0 4 年 1 1 月 3 0 日



# 2004年度 中間期 決算概要

## 2004年度中間期の総括

当社の売上高は、上半期よりも下半期に偏る傾向があり、上半期の業績は期待できないことが通例となっています。

当中間期は、ダイオキシン対策関連機器等の需要が予想以上に低下したこと、上半期に予定していた一部の受注が下半期に先送りされたこと等により、売上高は前中間期に及びませんでした。

しかしながら、経費圧縮に最大限、努力したこと等により、利益関係では、欠損ながら、通例の中間期並みとなりました。

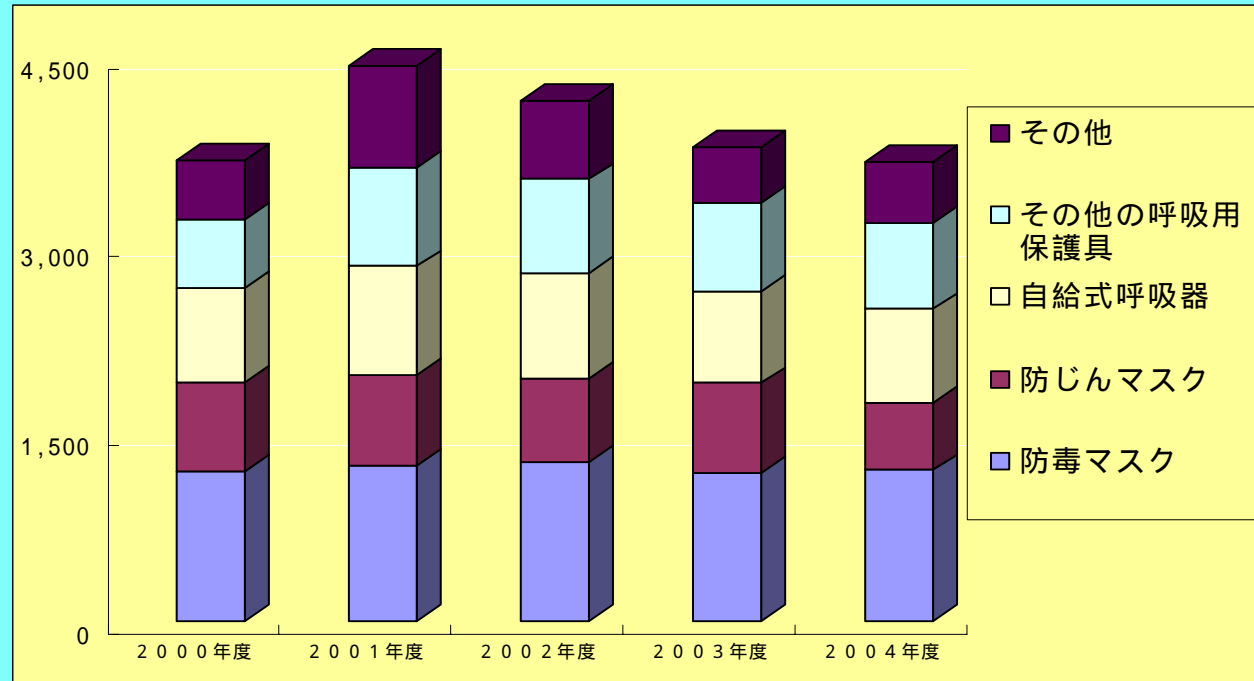
## 2004年度中間期 損益の状況

(単位：百万円)

	03年度中間期	04年度中間期	前中間期比増減	備 考
売上高	3,774.0	3,662.7	111.3	一部の受注の減少並びに先送り等により、前中間期比減少となりました。
製品製造原価	1,939.5	1,835.4	104.1	製品製造原価は、前中間期にあった後ろ向き作業の減少、徹底した経費節減努力等により改善しましたが、価格競争等に起因する商品原価率の上昇が、収益の足を引っ張りました。
商品原価	897.4	915.5	18.1	
売上原価	2,837.0	2,751.0	86.0	
売上総利益	937.0	911.6	25.4	
販売費及び一般管理費	1,056.2	1,011.6	44.6	経費削減の成果が現れはじめました。
営業利益(損失)	119.1	99.9	19.2	受取配当金の増加が、営業外利益増加の主な要因です。
営業外損益(損側表示)	21.2	18.6	2.6	
経常利益(損失)	140.3	118.5	21.8	特別損失で役員退職慰労引当金を、20百万円繰り入れました。
特別損益(損側表示)	28.5	19.5	9.0	
税引前当中間期利益(損失)	168.8	138.0	30.8	前中間期比、売上高は111百万円減少しましたが、中間純損失は16百万円改善しました。
法人税、住民税及び事業税	2.5	2.7	0.2	
法人税等調整額	67.0	52.6	14.4	
中間純利益(純損失)	104.4	88.1	16.3	

## 中間期のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



## 当中間期の特徴

防毒マスクは、順調に推移し、前中間期を上回ることができました。

防じんマスクは、前中間期のSARSによる売上げ増が下火となったこと、一部ユーザーからの受注の減少並びに先送りがあったこと等で、全体的に低調に推移しました。

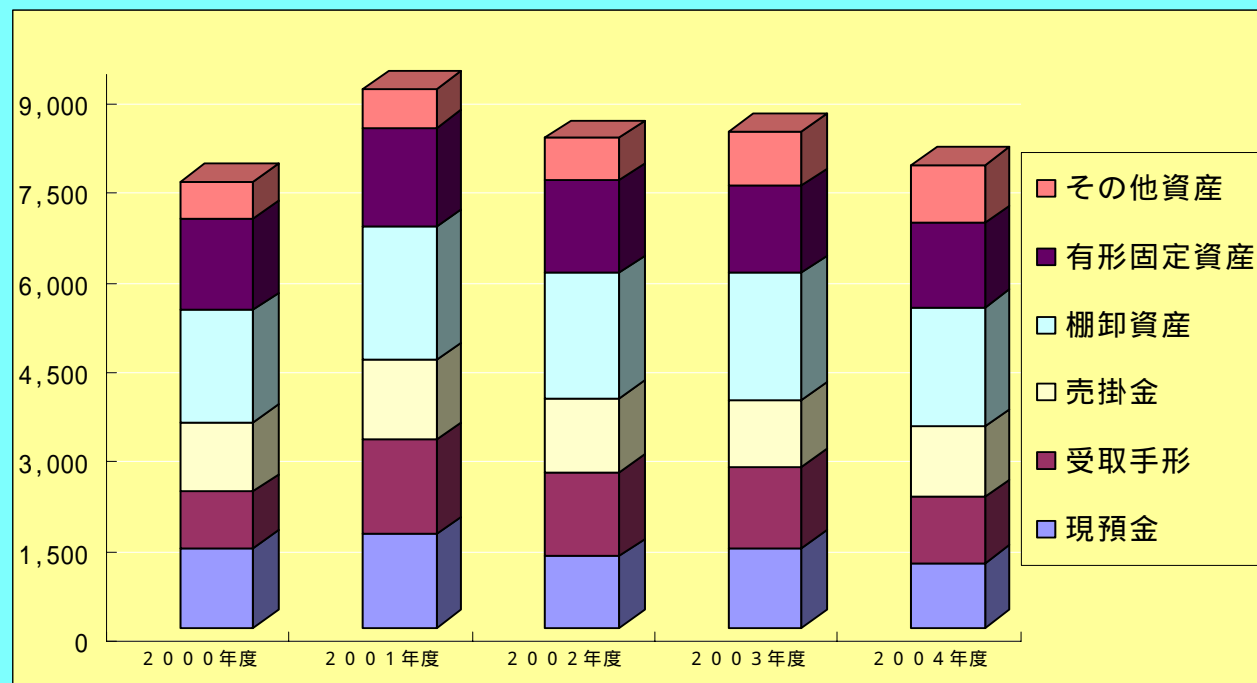
自給式呼吸器、その他の呼吸用保護具は、ダイオキシン対策関連機器が予想以上に低調であったこと、大口の官公需で受注が下半期に先送りとなったこと等の影響はありましたが、全体的には、前中間期を僅かながら上回りました。

以上により、当中間期の売上高は、前中間期を下回りました。

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
防毒マスク	1,197.1	1,235.4	1,270.7	1,183.8	1,202.4
防じんマスク	710.2	726.2	664.4	711.7	537.9
自給式呼吸器	749.5	863.8	840.8	735.3	745.2
その他の呼吸用保護具	550.5	789.5	743.6	702.7	681.8
その他	467.8	806.2	619.8	440.3	495.1
合計	3,675.4	4,421.3	4,139.5	3,774.0	3,662.7

## 中間期の主要資産状況推移

(単位：百万円)



## 当中間期の特徴

現預金が前中間期比約2.4億円減少していますが、これは、借入金が長期資金の折り返しタイミングのずれで、前中間期比、約4.3億円減少したことが主因です。

受取手形は、簿外の割引手形を加えると約1.2億円の減少となります。

売掛金は、前中間期比、微増しました。

棚卸資産は、特に、商品の棚卸資産が前中間期比微減しました。

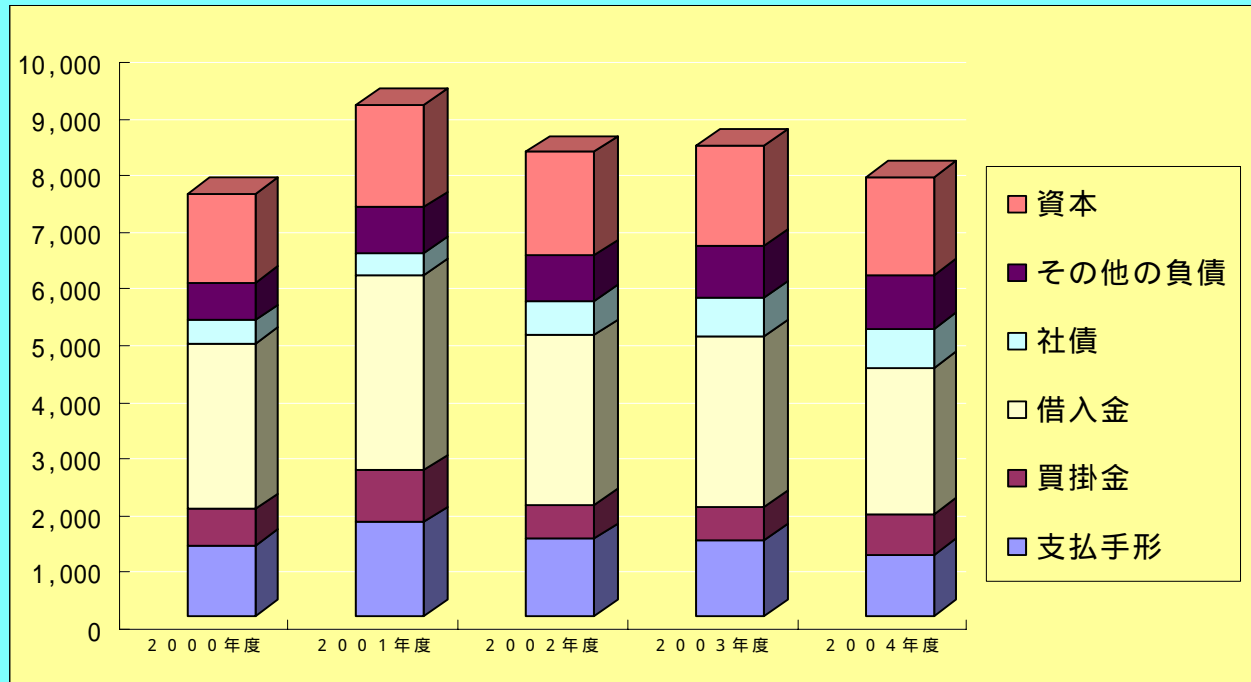
当中間期においては、特段の投資を実施しておりませんので、有形固定資産は前中間期比減少しています。

株価の回復により、保有有価証券の時価が前中間期比、約1億円上昇したこともあり、其他資産は増加しています。

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
現預金	1,341.4	1,569.7	1,198.0	1,331.6	1,093.1
受取手形	947.2	1,587.6	1,411.5	1,370.8	1,101.6
売掛金	1,159.6	1,335.9	1,239.6	1,112.5	1,176.9
棚卸資産	1,874.7	2,232.4	2,103.3	2,123.2	1,992.5
有形固定資産	1,544.4	1,657.1	1,548.0	1,473.6	1,419.4
其他資産	614.8	656.5	707.7	914.3	982.1
合計	7,482.1	9,039.2	8,208.1	8,326.0	7,765.6

## 中間期の主要負債・資本状況推移

(単位：百万円)



### 当中間期の特徴

支払債務（支払手形＋買掛金）は、前中間期比、約1.3億円減少しました。経費圧縮の効果も含まれると考えられます。

借入金は、長期折り返し資金借入れのタイミングもあり、約4.3億円減少しています。一方、グラフには現れていませんが、手形割引は1.5億円増加しています。

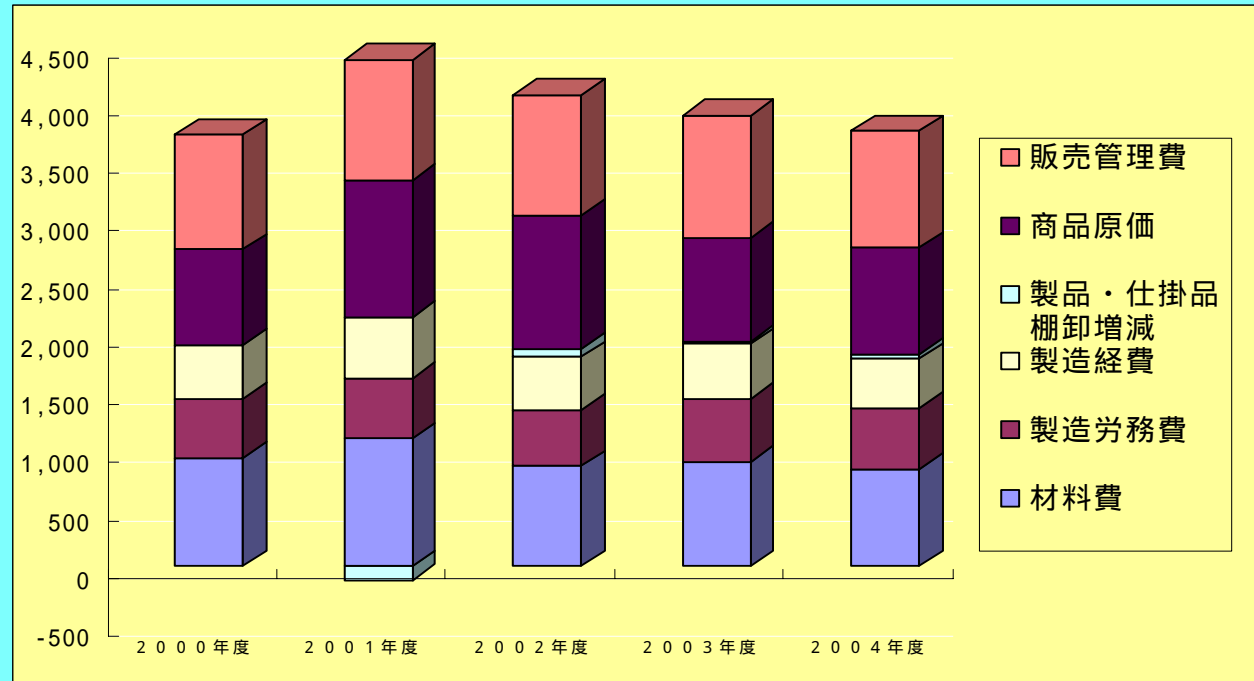
社債の増減はありません。

前期に続き当中間期も欠損のため、未処分利益が減少しました。準備金、積立金等の残高には変化がありません。

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
支払手形	1,245.0	1,656.2	1,363.2	1,339.4	1,091.1
買掛金	643.1	917.8	606.0	586.3	703.5
借入金	2,941.1	3,459.5	3,001.6	3,017.6	2,587.2
社債	400.0	400.0	600.0	700.0	700.0
その他の負債	665.3	791.7	803.6	903.1	941.5
資本	1,587.6	1,814.0	1,833.7	1,779.6	1,742.3
合計	7,482.1	9,039.2	8,208.1	8,326.0	7,765.6

## 中間期の売上原価・販売管理費推移

(単位：百万円)



## 当中間期の特徴

製造原価、販売管理費は、前中間期比大幅に減少させることができました。これは、売上高の低下に伴う変動費の減少という要因も一部認められますが

- ・前年度発生した、自主回収等による後ろ向きの経費・受注活動の低下が解消したこと、
- ・前年度後半から、シックスシグマ手法によるマネジメント・イノベーションを手がけ、その中での徹底した経費節減を実施した効果が見え始めたこと、

等によるところが大きいと考えられます。

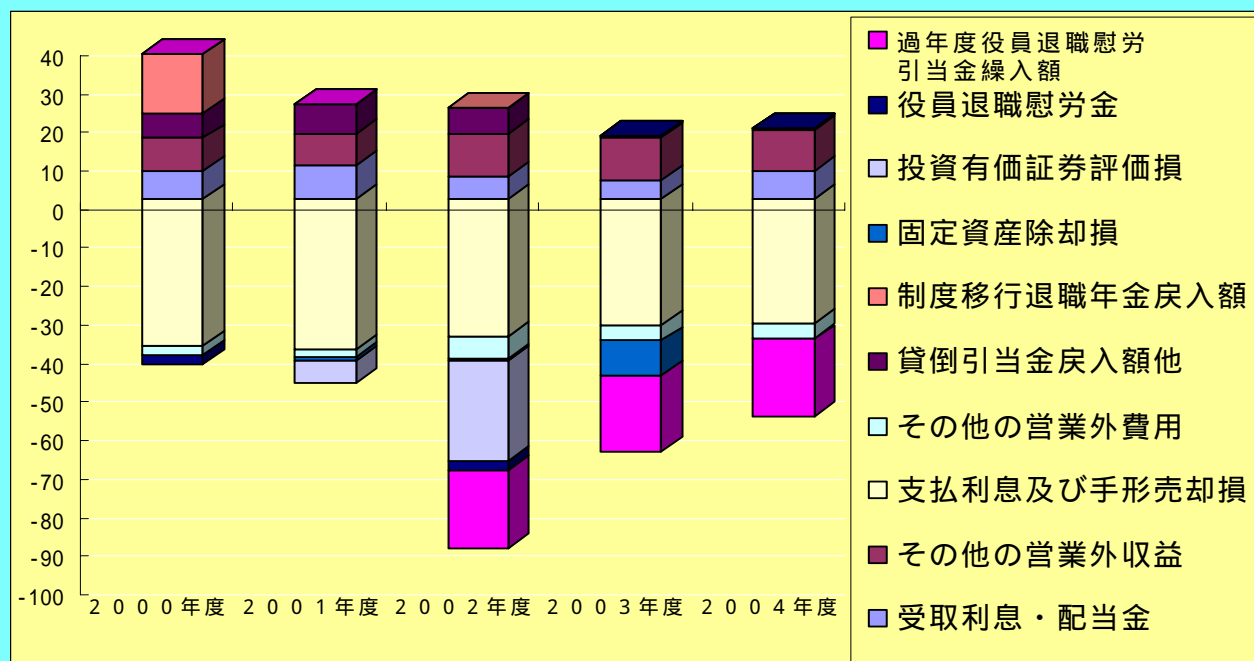
販売価格競争が激化する中で、商品原価率が上昇しました。

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
材料費	935.6	1,105.1	865.3	906.3	839.8
製造労務費	510.4	521.0	483.8	540.5	531.7
製造経費	466.9	521.4	458.2	473.1	420.2
製品・仕掛品棚卸増減	-6.6	-122.8	76.3	19.5	43.6
商品原価	823.4	1,190.7	1,145.6	897.4	915.5
販売管理費	994.4	1,038.4	1,039.1	1,056.2	1,011.6
合計	3,724.3	4,253.9	4,068.5	3,893.2	3,762.7



## 中間期の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



## 当中間期の特徴

保有株式銘柄の業績が回復基調にあり配当金の受取が増加しました。また、投資有価証券の評価損がゼロとなりました。

前中間期比、固定資産除却損が大幅に減少しました。

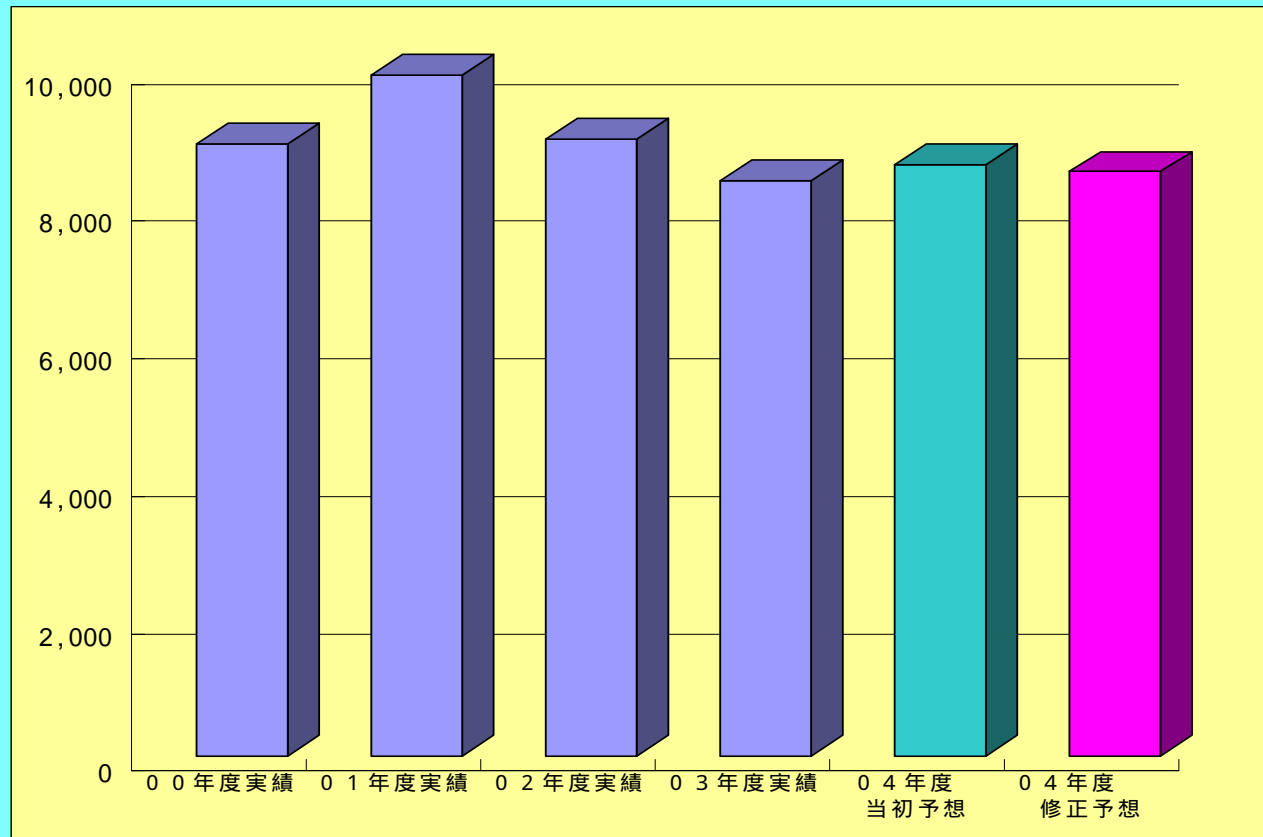
特別損失のほぼ全額が、役員退職慰勞引当金への繰入です。平成14年度から5年間に分けて、財務体質の強化を狙って繰り入れています。

	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	
営業外損益	受取利息・配当金	7.2	8.6	5.8	4.6	7.3
	その他の営業外収益	8.4	8.4	10.8	11.3	10.5
	支払利息及び手形売却損	-38.1	-39.0	-36.0	-32.7	-32.3
	その他の営業外費用	-2.3	-2.1	-5.7	-4.3	-4.1
	営業外損益合計	-24.7	-24.1	-25.0	-21.2	-18.6
特別損益	貸倒引当金戻入額他	6.5	7.7	7.0	0.3	0.5
	制度移行退職年金戻入額	15.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	固定資産除却損	-0.1	-0.8	-0.2	-8.9	-0.1
	投資有価証券評価損	0.0	-5.9	-26.2	0.0	0.0
	役員退職慰勞金	-2.6	-0.3	-2.6	0.0	0.0
	過年度役員退職慰勞引当金繰入額	0.0	0.0	-19.9	-19.9	-19.9
	特別損益合計	19.3	0.6	-42.0	-28.5	-19.5

# 2004年度 中間期 業績予想

## 通期の売上予想

(単位：百万円)



00年度実績	01年度実績	02年度実績	03年度実績	04年度当初予想	04年度修正予想
8,917	9,921	8,977	8,371	8,600	8,500

## 状況と見通し

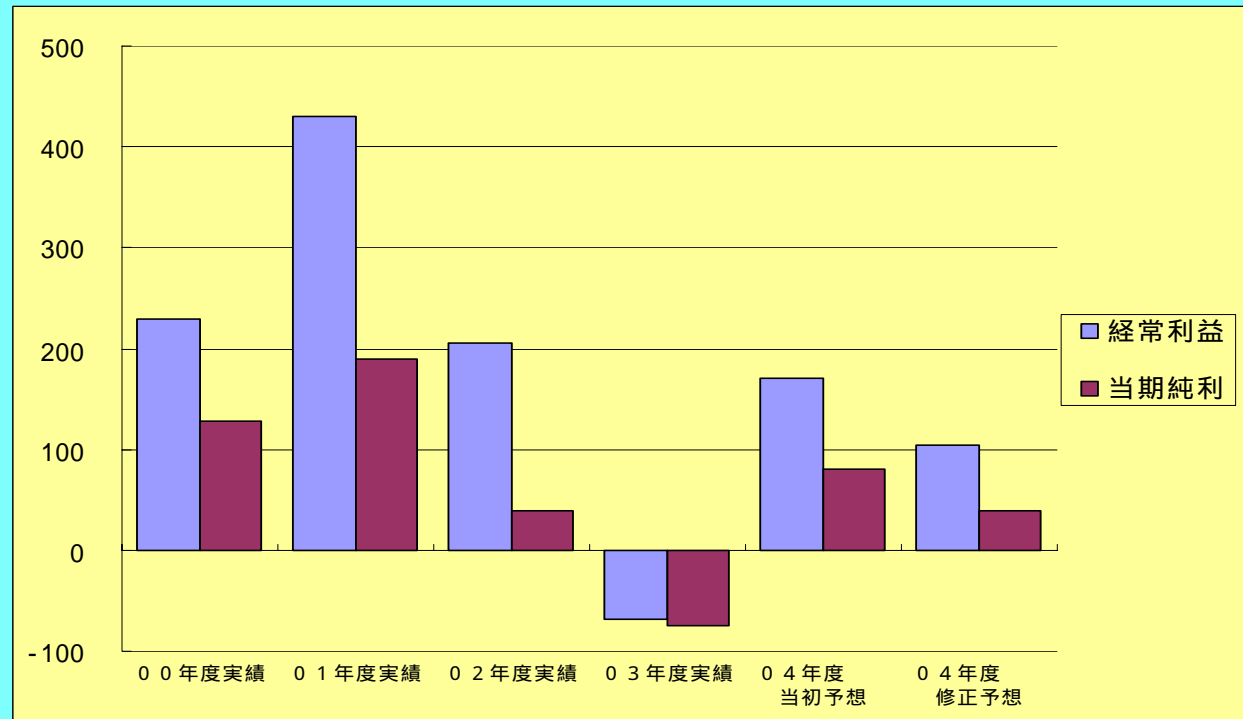
2004年度の通期の売上高は、当初、2004年5月の時点では、86億円と予想していました。

2004年度中間期は、ダイオキシン対策関連機器等の需要が予想以上に低下したこと、及び上半期に予定していた一部の受注が下半期に先送りされたこと等により、売上高は、前中間期に及ばず、また、当初の予想39億円には約2.8億円届きませんでした。

2004年度下期につきましては、上半期より先送りされた受注の実現と、さらなる拡販策により、上半期での遅れを取り戻す予定ですが、安全性をみて、当初予想の86億円を85億円に修正することといたしました。

## 通期の利益予想

(単位：百万円)



## 状況と見通し

2004年度の売上高予想を、86億円から85億円へ修正したことから、付随して、経常利益を1億7千万円から1億5百万円へ、当期純利益を8千万円から4千万円へ、それぞれ修正しました。

下半期も、経費節減の効果が期待できるものの、販売価格競争の激化から、商品原価率の高どまりが予想されます。

	00年度実績	01年度実績	02年度実績	03年度実績	04年度当初予想	04年度修正予想
経常利益	230	431	206	-68	170	105
当期純利益	128	190	40	-74	80	40